

《履修上の留意事項》公衆衛生学・疫学という科目の性質上、原則として最も新しい資料を用いて講義を進める。
遠隔授業のみ実施。

《担当者名》西 基

【概 要】

この科目は後期の「疫学」と前編・後編をなすもので、公衆衛生学・疫学の幅広い知識を習得する。

【学習目標】

わが国の感染症・学校保健・母子保健・人口統計・国際保健に関し、公衆衛生学的・疫学的視点から説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	感染症(1)	感染症の疫学・感染症法	西
2	感染症(2)	感染症対策	西
3	感染症(3)	後天性免疫不全症候群・結核・予防接種	西
4	感染症(4)	食中毒	西
5	学校保健	学校保健と学校保健安全法	西
6	母子保健	母子保健法・母子保健施策	西
7	人口統計(1)	人口静態統計（国勢調査）	西
8	人口統計(2)	人口動態統計（出生・死亡）	西
9	人口統計(3)	人口動態統計（乳児死亡・新生児死亡・妊産婦死亡・死産）	西
10	人口統計(4)	主要死因の解説	西
11	人口統計(5)	悪性新生物の罹患・死亡	西
12	人口統計(6)	部位別の悪性新生物とその危険因子	西
13	人口統計(7)	心疾患・脳血管疾患とその危険因子	西
14	人口統計(8)	自殺・他殺・事故による死亡	西
15	国際保健	アルマ・アタ宣言、オタワ憲章、国際保健機関(WHO)、JICA	西

【評価方法】

原則として定期試験100%だが、提出物などを加味する場合がある。

【備 考】

教科書：『保健師国試スキルアップブックNEO』第3版 海馬書房
『コ・メディカル用語事典』第6版 海馬書房

その他：資料としてプリントを配付する。

看護師国家試験などの問題の演習を適宜行い、それまでの講義内容のフィードバックを行う。

【学習の準備】

予習として教科書の該当部分に目を通すことが望ましい（10分程度で可）。復習は、講義のあった日には必ずすること。何らかの事情で当日できなかった場合には、その週末にはすること。その際、教科書・事典・プリントには最低20分はかけてすべて目を通すこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,3

【実務経験】

社会医学系指導医、日本公衆衛生学会認定専門家。

【実務経験を活かした教育内容】

社会医学系指導医および日本公衆衛生学会認定専門家としての実務経験を生かし、感染症・学校保健・母子保健・人口統計・国際保健に関し、過去から最新に渡る情報を提供して講義を進める。